

**Q10 更なる河道対策によって、河道の分担流量を増やすことはできないのか？**

**A10** 河道の分担流量は、経済性や社会的影響を考えた上で、可能な限りの河道掘削を行った結果、河道で分担可能な最大の流量として設定しています。さらに、河道の分担流量を増やすためには、「引堤」か「堤防嵩上げ」(図1)が必要となりますが、引堤や堤防の嵩上げは、大規模な用地買収や家屋移転、高速道路や新幹線などの重要な橋梁の架替えを伴うことから、高度に市街化した下流部の沿川でこれらの対策を行うことは、現実的ではないと考えています。

河道対策の選択肢や河道掘削の限界について、以下に詳しく説明します。

**河道対策の選択肢**

一般に、河道対策には図1に示す5つの方法があります。

武庫川の下流部は密集市街地を流れる天井川です(図2)。引堤や堤防の嵩上げは、大規模な用地買収や家屋移転、高速道路や新幹線など重要な橋梁の架替え等を伴うため、現実的ではありません。また堤防の嵩上げは、引堤と同様の課題に加えて、洪水時の水位を上げることになり、破堤時の被害を増大させることにもつながります。このようなことから、武庫川の築堤区間では、引堤と堤防の嵩上げは原則採用しないこととしています。

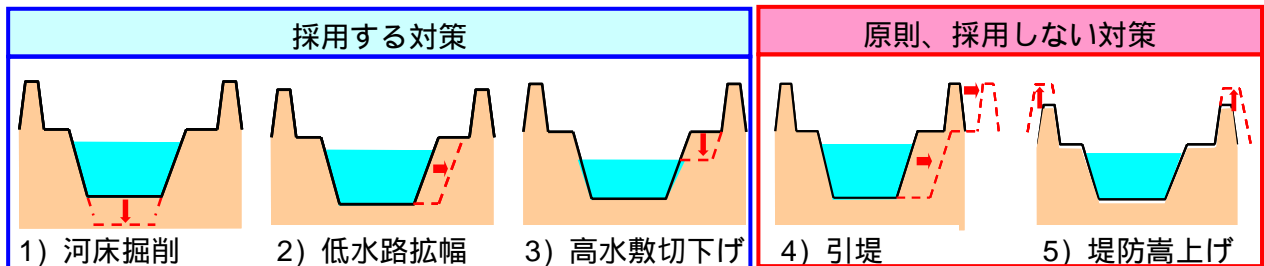


図1 河道対策

**密集市街地を流れる天井川  
引堤・堤防の嵩上げは困難**

阪神電鉄付近

**主要橋梁の架替えを伴う対策  
は非現実的**

**高水敷利用に関する住民の  
ニーズは高い  
可能な限り高水敷を確保**

図2 武庫川下流部の社会環境

## 河道対策の限界

河床掘削などにも限界はあります。武庫川では、図2に示す社会環境を考慮して、河道対策の限界を図3のように設定しました。河道の分担流量は、このような対策を最大限行った上で設定していますので、これ以上増やすことはできません。

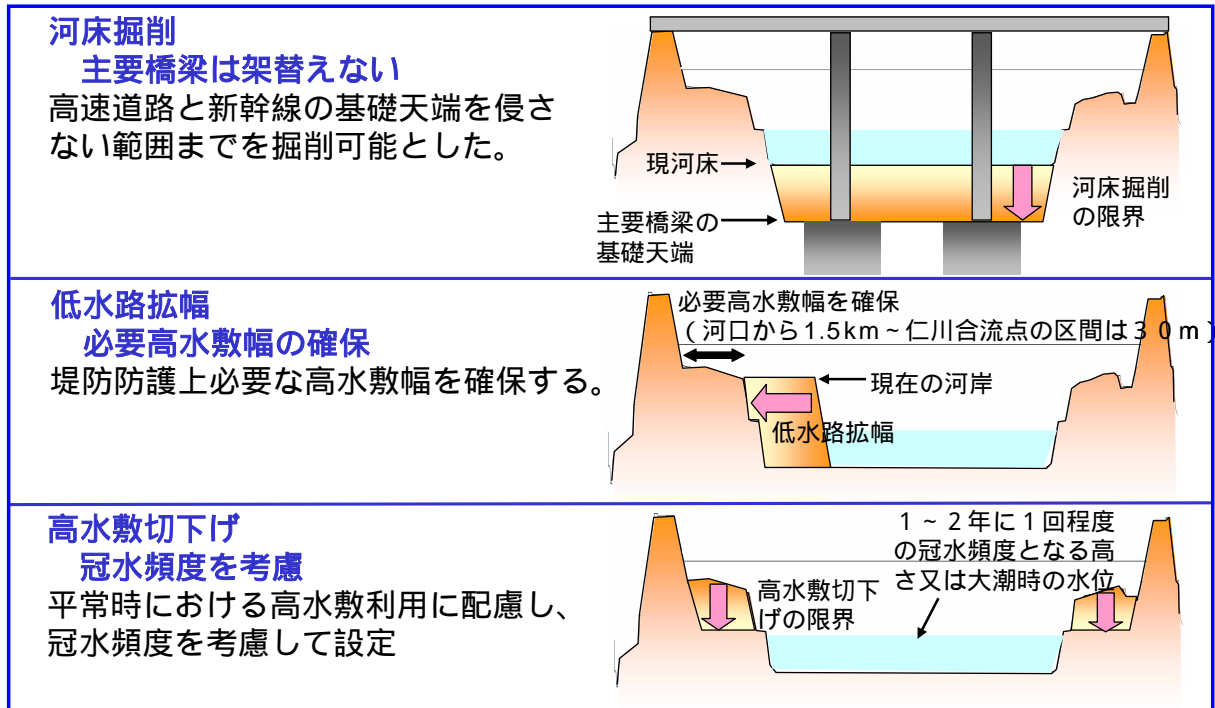


図3 河道対策の限界